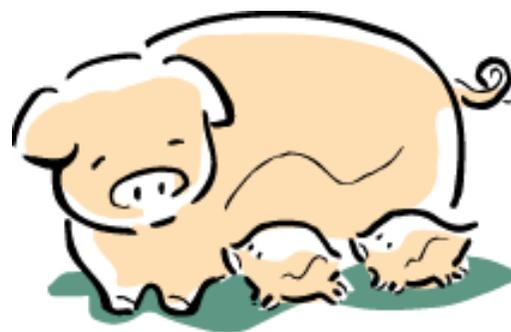


畜産施設へのご提案書

衛生管理の向上での経費削減案

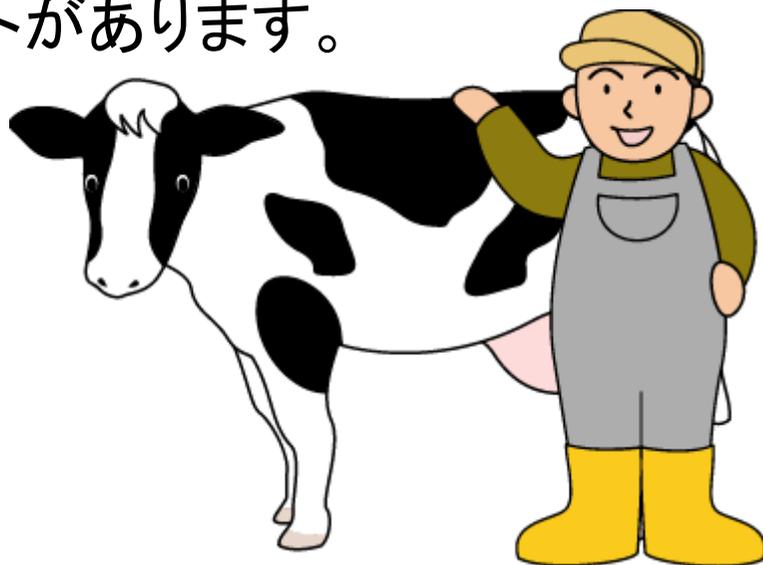


炭酸ガスを利用した殺菌水生成装置

ハセツプメーカー

畜産施設から食品加工工場で必要とされる殺菌（消毒）、消臭剤について

多くの畜産施設では用途に併せて色々な殺菌消毒剤が使用されています。舎内の殺菌消毒剤で使用されている薬剤で次亜塩素酸ソーダがあります。特徴としては、安価で比較的水質の硬度に影響を受けないことから多くの生菌に対して殺菌力がありますが、殺菌に時間がかかることや施設内設備の腐食や残留性、生体の殺菌消毒に使用出来ないなどのデメリットがあります。



次亜塩素酸ソーダのデメリットを解消するために開発された殺菌（消毒）水生成装置がハセップメイカーです。

殺菌水生成装置ハセップメーカーについて

ハセップメーカーは次亜塩素酸ナトリウムを炭酸水で希釈した殺菌(消毒)水です。炭酸水で希釈することにより液性をアルカリから弱酸性にpH調整を行い、殺菌主成分の次亜塩素酸の含有量を増やして殺菌力を高めています。

◎通常の場合

次亜塩素酸ナトリウム + 水 = 弱アルカリ性で遅効性の弱い殺菌力

◎ハセップメーカー水

次亜塩素酸ナトリウム + 炭酸水 = 弱酸性で即効性のある強い殺菌力

その殺菌力の差は6倍以上で弱酸性のため、手指の洗浄から牛、豚の体の洗浄まで使用することが出来ます。

ハセップメーカー導入メリット

1. 牛舎、ミルクパーラーでの使用方法

高圧洗浄機を使用してサルモネラ対策として牛床、壁の殺菌消毒に使用します。特に夏場の噴霧は気化熱で冷却効果も得られ、乳量、乳質の低下につながります。また、免疫抵抗の低い仔牛が使用するカーフハッチに使用することでウイルス性の下痢を抑える効果があると獣医からの報告もあります。

酪農の現場で問題となっている乳房炎では、農家一戸あたり年間100万円以上の経済損失があると報告されています。乳房炎対策として搾乳施設の殺菌消毒や作業者の長靴、手指洗浄にも使用することで経済損失の削減にすることも可能です。



カーフハッチ

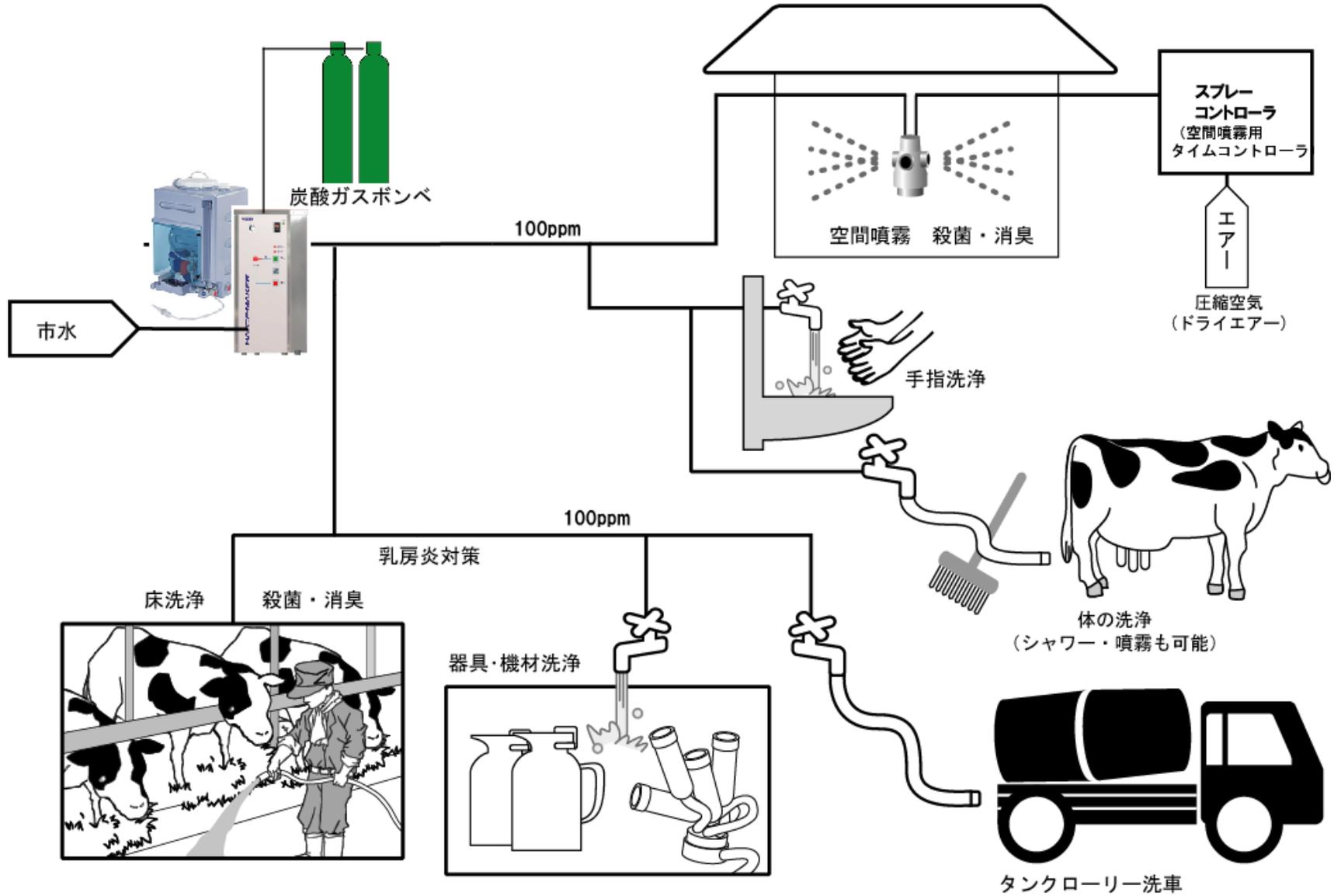


牛舎から搾乳室のでの通路



搾乳室

■牛舎システムフロー図



2. 養豚施設での使用方法

高圧洗浄機を使用して豚舎内の床や壁の殺菌消毒に使用します。特に免疫力が低い離乳舎での噴霧は事故率を低減させる上で効果的です。導入した養豚場では事故率が5%から2.5%に軽減したとの報告があります。

導入効果実例

豚の出荷量(年間3000頭)

導入前

$3000\text{頭} \times \text{事故率}5\% = 150\text{頭}$

年間の損失額 $15,000\text{円}/\text{頭} \times 150\text{頭} = 2,250,000\text{円}$

導入後

$3000\text{頭} \times \text{事故率}2.5\% = 75\text{頭}$

年間の損失額 $15,000\text{円}/\text{頭} \times 75\text{頭} = 1,125,000\text{円}$

ハセップメーカーの購入金額(5年リース)

年額480,000円

$2,250,000\text{円} - 1,125,000\text{円} - 480,000\text{円} = 645,000\text{円}$

ハセップメーカーを導入したことにより、年額**645,000円**の経費が削減したことになります。薬剤費は1トン当り200円程度です。



豚舎内動力噴霧

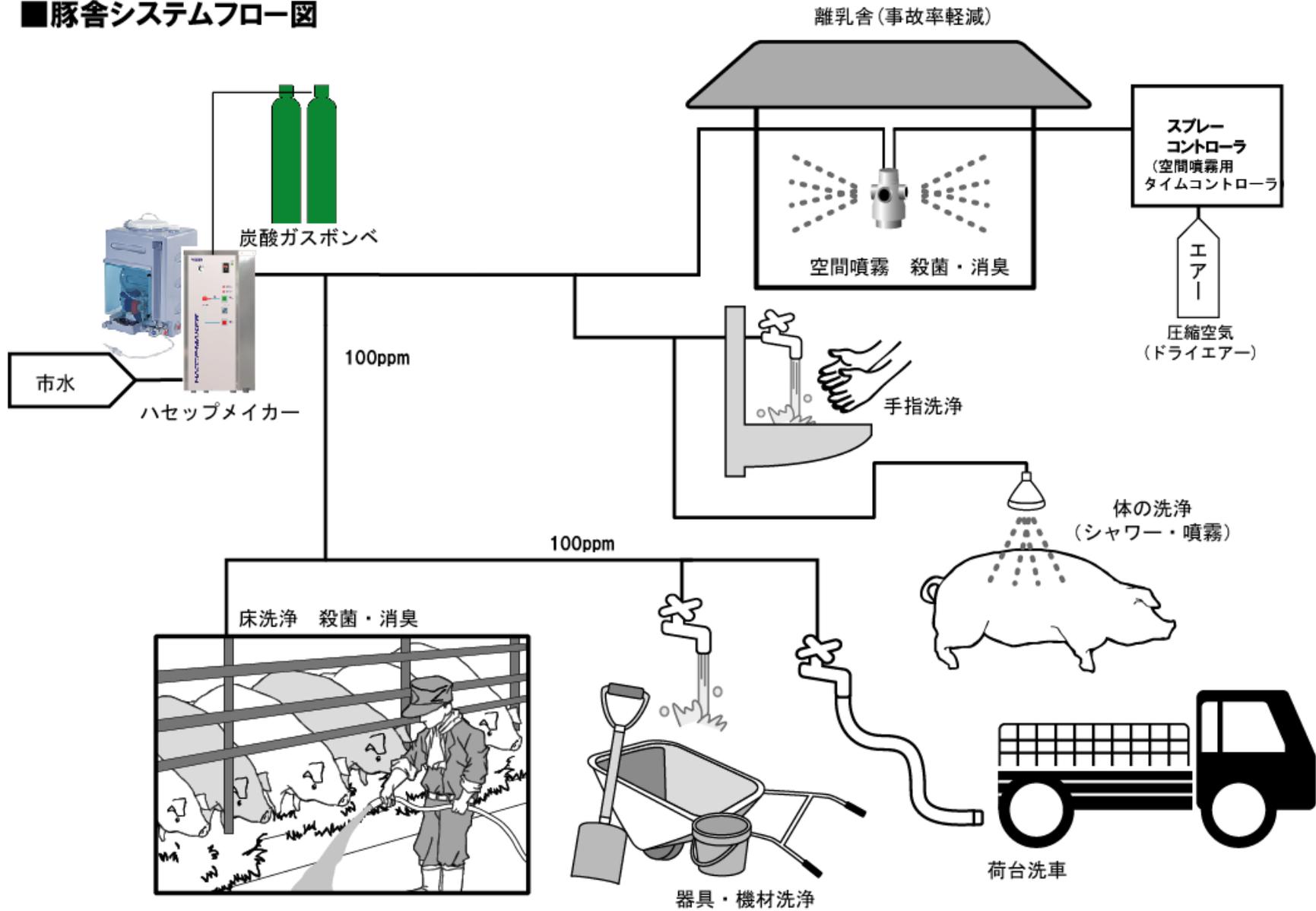


離乳舎内噴霧



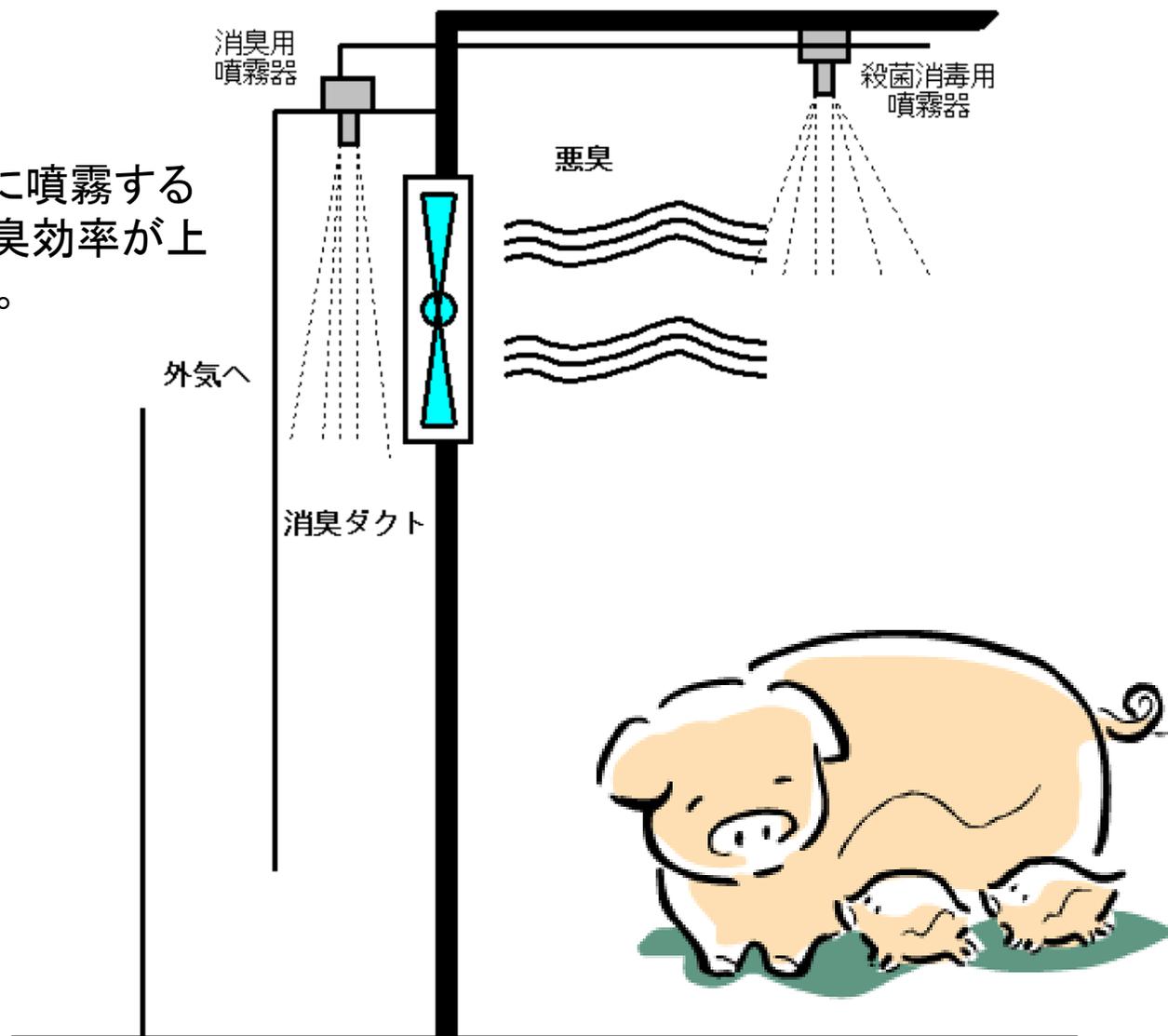
二流体噴霧器

■豚舎システムフロー図



設置型噴霧器の使用方法

ダクト内に噴霧することで消臭効率が上がります。



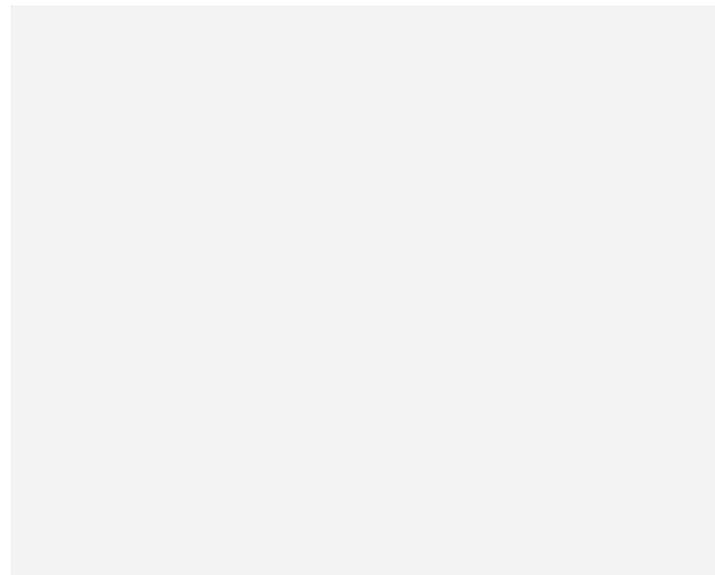
簡易移動型噴霧器



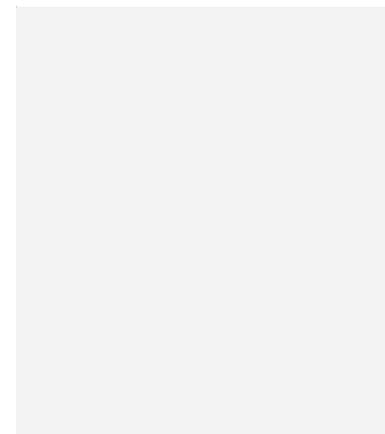
軽トラックの荷台に載せて、各畜舎に噴霧します。



設置型噴霧器



自動制御により畜舎に合わせて噴霧します。



ハセツプメーカー製品ラインナップ



殺菌水生成装置
HM-1500

生成量: 1500ℓ／毎時

塩素濃度: 50／100／200

pH: 5.5～6.5



原水pH調整装置
PM-1500

生成量: 1500ℓ／毎時

pH: 5.5～6.5